

武士の成長と院政

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

武士はどのようにして現れ、院政のもとでどう力をのばしたのだろう。

読み終わったら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 武士団の成長

武士団の誕生

武士団

武士が一族や家来を率いてつくった集団。

棟梁

武士団をまとめる、力のある武士。源氏と平氏が代表的。

平将門の乱

10世紀中ごろ、関東で平将門が起こした反乱。

奥州藤原氏

平泉(岩手県)を拠点に、約100年にわたって東北地方で栄えた一族。

10世紀ごろ、地方の政治が乱れて土地をめぐる争いが起こると、地方の豪族や有力な農民は土地を守るために武装した。都でも武芸にすぐれた者が貴族の警護にあたった。こうして現れた**武士**は、一族や家来を率いて**武士団**をつくり、**棟梁**のもとにまとまった。

棟梁として力をもったのが、天皇の子孫である**源氏**と**平氏**である。10世紀の中ごろ、関東で**平将門の乱**、瀬戸内海で**藤原純友の乱**が起こると、朝廷は武士の力でこれをしずめ、武士の実力を認めた。東北では、のちに**奥州藤原氏**が平泉(岩手県)を拠点に栄え、**中尊寺金色堂**を建てた。

地方の政治が
乱れる武士が現れ
武士団をつくる平将門の乱
藤原純友の乱
10世紀中ごろ朝廷が武士の
力を認める

2 院政の始まり

上皇の政治

院政

位を退いた上皇が中心となつて行う政治。

上皇

位を退いた天皇。住まいを院といった。

白河上皇

1086年に院政を始めた上皇。

僧兵

大きな寺社が抱えた、武装した僧たち。

11世紀後半、藤原氏を母方の親戚としない天皇が即位すると、摂関政治はおとろえ始めた。1086年、天皇の位をゆずった**白河上皇**は、その後も上皇の住まい(院)で政治の実権をにぎり続けた。位を退いた天皇を**上皇**といい、上皇が中心となつて行う政治を**院政**という。

上皇のもとには、全国から多くの**荘園**が集まった。大きな寺社も荘園をもち、武装した**僧兵**を使って朝廷に要求を通そうとした。上皇はこれをおさえるためにも武士を重く用い、源氏や平氏の武士が都で力をのばした。地方でも、荘園の管理を任された武士が力をたくわえた。

問いへの答え

10世紀ごろ、地方の政治が乱れると、豪族や有力な農民が土地を守るために武装して武士となり、武士団をつくった。朝廷は平将門の乱や藤原純友の乱を武士の力でしずめ、その実力を認めた。1086年に白河上皇が院政を始めると、僧兵をおさえるためにも武士が重く用いられ、源氏や平氏が都で力をのばした。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

